

⑭＜現代的な諸課題への対応 PBL＞

校内でPBLを推進するためには？

【キーワード】 ファシリテーター 合意形成 評価

【事例1：メインテーマからプロジェクトテーマへ 問題発見フェーズ】

1 ねらい

PBLの具体的な授業構造のあり方と進め方に関する講義と演習を通して、PBLの手法を身につけ、ファシリテーターとして深い学びの実現を図る。

2 内容

講義「PBL概論」の後、演習「PBL実践入門」を通して、PBLの進め方を体験する。

3 方法

(1)講義「PBL概論」を実施する。

(2)演習「PBL実践入門」を実施する。

- ・「問題の発見」「問題の明確化」「仕様の設定(条件・目標)」「解決提案の創案」「解決提案の評価・選択」「成果の報告(発表)」の各フェーズの中で、「問題の発見」から「問題の明確化」を実際に経験してみる。
- ・メインテーマ「高校教員をとりまく環境の問題点」を提示し、KJ法やマトリックスを活用しながら、テーマの絞り込みを各グループで行い、決定したテーマを発表する。

4 校内研修の様子

- ・新しい時代に求められる学びとPBLとの関連を理解することができる。
- ・生徒の立場として「PBLの方法やプロセス」を理解することができる。
- ・教員の立場として「生徒への適用」と「議論・活動へのファシリテーション」について考えることができる。
- ・現場における問題として「議論活性化のための工夫～ワークシートの活用」の必要性を実感できる。

研修後のまとめ

○やはり講義だけでなく、自分で体験した方がより理解が深まりました。テーマの設定も客観的に（評価規準を設けて）決めていくところがとても参考になりました。

▶セルフチェック⑭-2

○ファシリテーションされる側の体験ができました。どんな問いを投げかければ生徒の思考が深まるか、ヒントをいただきました。

▶セルフチェック⑭-1

○難しく考えず、身近なところを題材にして考えていくことが大事だと思った。



【事例2：作ろう！ 全員が合意できるルーブリック】

1 ねらい

パフォーマンス評価に用いるルーブリックを作成し、校内でのPBLの推進への意識を高める。

2 内容

講義・演習「PBLに適した評価法」を通して、評価者間の相互主観性の度を上げる方策を身に付ける。(夏期休業中)

3 方法

作品例を採点し、グループ内で共有し、合意を目指すことで、「観点(着眼点)の決定」「良い成果の要件の決定」「要件の順位づけ」「成果の状態の文章化」「ルーブリックの実用性の検証」「ルーブリックの調整」というルーブリックの作成手順を経験する。

4 研修の様子

- ・講義を通して、「教育における評価の目的」「評価方法の種類」「PBLにおける評価～個人に対して・チームに対して～」 「パフォーマンス評価とルーブリック」が理解できる。
- ・「パフォーマンス評価」の道具としての「ルーブリック」の作成を経験することで、評価のズレとすり合わせの必要性を実感できる。
- ・「ルーブリック」の作成によって、「複数の教師」「教師と生徒」が目標を共有することができる。

研修後のまとめ

○一番の学びはルーブリックです。生徒の学びの質が変わると確信しました。今まで評価方法が難しく困っていたので今回の評価について参考になりました。生徒に事前にルーブリックを提示していくことの大切さが理解できました。

➤セルフチェック⑭-4



※この研修事例は、長野県総合教育センターにおける「産業教育におけるPBL～プロジェクトに基づく問題解決型学習～」の研修に基づいたものである。
研修の流れは、「PBL概論」(60分)、「プロジェクト・デザイン」(20分)、演習「PBL実践入門」(150分)、「PBLに適した評価法」(60分)で実施した。